

平成 28 年度事業計画

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

当法人は、昭和 39 年 1 月の創設以来、日本の文学・哲学・教育・美術等の各分野に多大な影響を与え、東洋の精神文化の基幹をなしてきた禅及び禅文化を、総合的に研究し、その成果を普及して、広く世界の人類文化に貢献する事業を展開してきた。

平成 28 年度もその理念に基づき以下の事業を遂行する。

I. 禅文化普及事業（公益目的事業）

〈1〉 調査・研究活動

1. 中国禅宗史・禅語録研究班

当法人は、設立以来語録研究班を組織し、禅文献のうち最重要とされる中国唐宋代の禅語録を継続して会読している。これらは禅の語録を、唐代・宋代の中国語の口語研究を踏まえ、語彙や文体の変遷と思想史の脈絡にしたがって読解してゆくものである。その成果は、唐宋の思想史解明に新たな観点を提供するものとなり、また、唐宋の口語研究に寄与するものとなる。

参加メンバーは仏教学、哲学、文学、中国語学などの研究者や学生、一般からの参加者などで構成され、学際的な雰囲気の中で研究が行なわれている。

①唐代語録（『祖堂集』）研究会〔班長 西口芳男〕

『祖堂集』は『景德伝灯録』の編集に先立つこと 52 年、完存する禅宗灯史の書としては現存最古のものであり、現代の禅に直結する唐五代の禅の資料の古層をなすものとして貴重である。北宋初期の当時の最高の知識人の刊削裁定を経た『伝灯録』に比べて、野趣に富んだ生の資料を提供してくれるものであり、口語研究の資料としても、近年、とみに注目を集めている。既に 40 年前、この研究班では、入矢義高・柳田聖山の指導のもとに読まれ、当時の原稿によって『訓注祖堂集』（国際禅学研究所報告第 8 冊、2003 年）として当時の成果が発表されている。今回は『祖堂集』を成立させた福州の雪峰教団の禅師をメインにして深く読み進め、『祖堂集』成立の背景を探ることを目的とする。

今年度は巻 10・長慶和尚章第 26 則より始め、巻 11・保福和尚を読み進める。第二第四の金曜日開催。

②「神会語録」研究会〔班長 西口芳男〕

敦煌写本禅宗文献の中で最も重要なものの一つに神会関係のものがある。神会の語録の校訂本には、つとに、胡適氏、鈴木大拙氏のものがあるが、敦煌博物館本やいくつかの断片写本が出揃うと、従来校定には限界のあることがわかり、新たな定本、正確な訳文、詳細な注釈の作成が待たれていた。本会ではこの点を重視した読解を進めてゆく。

今年度は『雑徴義』〔四四〕「李冤問自然義」より始める。月 1 回開催予定。

③「景德伝灯録」研究会〔班長 西口芳男〕

禅語録中、最も基本的かつ重要な文献である『伝灯録』全 30 巻を、近年の日中両国の中国口語史研究の成果を踏まえて、千八百の古則公案といわれる問答の一つ一つの意味を解明することに重点を置き読解を進めている。

今年度は巻巻 17・雲居道膺章・曹山本寂章の稿化を進める。隔月 1 回開催。

2. 禅宗經典研究班

禅文献に関わる經典類について独自の研究を進めると共に、臨濟宗で常用される經典についても、現代に即した内容や形態は何かを究明し、一般に普及する方策を考える。

①「楞伽經」研究会〔班長 常盤義伸（花園大学名誉教授）〕

禅文献と深い関わりをもつ『楞伽經』研究は、学界の未開分野とも言われ、長い間、十全な研究がなされてこなかったが、常盤義伸花園大学名誉教授は、『楞伽經』四巻本を基に、南条文雄博士校訂梵文を再構成し、世界で初めて完全英訳・和訳を成し遂げた。

本研究会は、常盤教授を班長に、再構成梵文、漢訳とその訓読を改めて校訂し、英訳・和訳ともをチェックするものである。

本年度よりは、班員の要望により、未消化に終わった巻 1、巻 2 に戻って再検討を行う。毎月第 4 月曜日に開催。

②臨濟宗經典研究会〔班長 西村恵学〕

現代の臨濟宗で常用されている經典について、その声明や経本を中心に整理し、現代人に受け入れやすいものを考え、一般に普及するような方策を考慮して制作する。

3. 哲学研究班〔幹事 森 哲郎〕

平成 28 年度も、哲学分野と大乘仏教の伝統との遭遇の意義を学ぶため、仏典研究会としての「大蔵会」、「西田哲学会」、「西谷研究会」の三つの研究会を、各々、年 4 回（三カ月に一度）開催する予定である。研究会全体の指導には上田閑照先生の御尽力を仰ぎ、従来の仕方を継続する予定である。

「大蔵会」では、かつては『大乘起信論』や『華嚴五教章』を長年研究してきた実績を踏まえて、現在は『成唯識論』の解読に取り組んでいる。現在の参加者には、元大学教員から大学院生まで多様なメンバーである。若手の仏教研究者の大井和也氏がチューターとなり、テキストの解読・解釈を提示して、そのうえでの現代世界での「仏教」（伝統）の意義などを巡って討議が重ねられている。会場としては紫蘭会館地下会議室を使用している。

また哲学班の班長の上田先生の御指導のもとに、「西田哲学会」では主著『働くものから見るものへ』に、また「西谷研究会」では『禅の立場』に取り組んでいる。上田先生のご提案で、『夢中間答』の輪読をも同時に行われているが、これらも継続する予定である。

4. 日本禅宗史・禅語録研究班

日本の伝統教団を形成した祖師たちの伝記や語録を体系的に整備し、現代的に解釈することを目的とする。班員は所員を中心としたメンバーで構成する。

①『寂室語録』研究〔担当 能仁晃道〕

永源寺開山寂室元光の語録の解読および訓注・刊行を行なう。『永源開山寂室和尚語録』

は南北朝期の漢詩文学の様相を伺うに足る希有な史料であるが、従来本格的な検討がなされたことがなかった。今回の訓注は天台学・禅学双方に造詣の深い天台宗智教寺住職佐々木陵西師が中心となって作成作業を行っていたが、佐々木氏が病気による長期療養のため、能仁が引き継ぎ作業中。平成28年9月に『訓注永源寂室和尚語録』(全3巻)として刊行する。

②『延宝伝灯録』研究〔担当 阿部理恵〕

日本の禅僧・居士ら約千人の伝記『延宝伝灯録』(卍元師蛮撰述)の訓注作業を行なう。本書は江戸時代までの日本禅僧の伝記の集大成として位置づけることができるが、歴史学の成果に加えて難解な禅語の知識が不可欠であったため、従来訓読等が刊行されたことはなかった。現在、全文を読み下し文とし、注釈を付す作業を継続中である。

③江湖開山語録研究〔担当 能仁晃道〕

臨済宗各派寺院の協力により、開山・中興開山等が残した語録類を整理し、訓注を行なう。本山以外の寺院に残る語録類の訓注は、殆どなされておらず、日本禅宗史上重要なものが多い。一昨年度より妙心寺派平林寺中興開山鉄山禅師の語録『懶斎集』を読み下し文とし、注釈を付す作業を継続中である。その研究成果は『懶斎集』上下として28年度に刊行する。

5. マルチメディア研究班〔班長 西村恵学〕

印刷物をはじめ、音声、映像、ホームページなど、多様なメディアを通して現代人に禅をわかりやすく伝える方策を研究する。

昨年度に続き、すでに絶版になってしまっている刊行物や、今後刊行する専門書を電子書籍化する方策も調べていく。

また、スマートフォンアプリ「京都禅寺巡り」のコンテンツ充実や広報活動を行なうとともに、各種助成金の申請を鑑みつつ英語版制作の検討を行なう。これに関連して、28年度には京都国立博物館での臨済禅師1150年白隠禅師250年遠諱の特別展開催に合わせ、「京都禅寺巡り」登録寺院約60ヶ寺に一斉公開を呼びかけ、公益社団法人京都市観光協会とともに「春の京都禅寺一斉拝観」を実施する。専用ホームページ(<http://zendera.info>)も公開中。

〈2〉資料収集・資料公開活動

1. デジタルアーカイブス

禅の文化として大切に遺されてきた書画を中心としたアーカイブを、劣化しないデジタルデータとして保存していくことを目的とする事業。一応のデータ収集までに概ね7年を目途として活動中。

将来的には、以下のような事業を通して蓄積した画像と資料に基づいて、「禅文化財WEB博物館」(仮称)を制作し、国内外にバーチャル博物館として、禅の文化財を紹介していく事業として展開したい。

①「禅の至宝」(文化財目録整備事業)

各派本山や、文化財を多数所蔵する由緒寺院の宝物を、保存性や再現性に優れた電子デ

ータで記録し利用するための「デジタルアーカイブ 禅の至宝」を、23年度から運用開始。協力の得られた寺院に撮影に出向くなどして、絵画・墨蹟類を中心にデジタル写真に撮影しデータベースに保存する。また同時に、専門分野の学芸員に依頼してそれらデータの目録情報を入力していく。既に調査整理済みで許可を得られたものと、創立 50 周年を機会にあらたに精細画像で撮影した禅文化研究所所蔵品を登録済み。また、現在進められている、臨濟禅師 1150 年白隠禅師 250 年遠諱事業による特別展にむけての事前調査にも関与し、出陳品についても許可を得て登録を進めていく予定。

②一般寺院什物データベース

①に連携するために優品を有する一般寺院の宝物のデジタルアーカイブ整備事業として、簡易なデータベースシステムを内部で開発した。当該寺院に絵画・墨蹟類などのデジタル写真での撮影と目録のデータベース化を推奨する。平成 24 年より、花園大学歴史博物館と共同で、調査・撮影・データ入力等を順次行っており、現在、東京都麟祥院（妙心寺派）の調査・撮影を完了し、データ入力中。今年度は継続で静岡県方広寺の追加調査およびデータ入力を行なうほか、京都府円福寺（妙心寺派）、妙心寺、岐阜県永保寺（南禅寺派）などが調査対象に入っている。

2. 資料の収集・整理・公開

①資料室所蔵品の整理・公開（利用）

当法人がこれまで収集してきた 37,000 点にのぼる文献資料のうち、未整理分について、資料管理ソフトを用いての入力と分類整理を行なう。今後、オンライン蔵書検索への対応も検討する。蔵書には、他の図書館や資料館にはない貴重なものが含まれているが、これらの閲覧は、従来通り内外の研究者や禅に関心のある一般人に無料で開放する。

②WEB版所蔵墨蹟展

当法人が所蔵する書画を、ホームページ上でバーチャル墨蹟展として随時公開する。

③禅文化研究所企画墨蹟展

禅宗寺院及び当法人が所蔵する書画を一般公開し、美術に関する講演を行なう墨蹟展を花園大学歴史博物館と共同で開催する。今年度は昨年度のデジタルアーカイブ事業の成果を踏まえ、春季展として、4月2日より6月4日まで「湯島麟祥院 春日局と峨山慈棹」を開催する。記念講演も2回実施する。

④所蔵墨蹟類の保存・修復【周年関連事業】

研究所所蔵墨蹟のうち、今後の展覧に耐えられるよう、とくに傷みがひどい優品を優先し、数年かけて修復する。

⑤黒豆データベース公開事業

当法人がこれまで電子テキスト化してきた禅宗文献のうち、訓注本として発刊してきたものの原文データベースを、簡易検索システムと共にホームページ上で一般に無償公開中で、随時、データファイルを追加する。また原文データベース以外に、基本的な文献の訓読データをもテキストデータベースとして登録していくように推進する。

⑥問い合わせに関する回答

資料の出典や解説等について、寺院・団体・個人を問わず様々な問い合わせが数多く寄せられる。それらの回答に無料で応じる。

3. Wikipedia のデータ修正・登録事業

インターネット上の電子辞書サイト(Wikipedia)の、禅や禅文化に関する部分を見直し、データの修正や新規登録などを随時行なう。

〈3〉 広報・普及活動

1. 季刊『禅文化』の刊行

季刊『禅文化』は、禅の思想と生活及び文化・美術などに興味を持つ読者のための教養誌として刊行を続けている。今年度は、240号～243号を発行する。240号は小特集として「湯島 麟祥院」、241号は「禅と能」特集、242号は「永源寺」特集、243号は「臨濟禅師 1150年・白隠禅師 250年遠諱」特集として刊行する。

2. 研究成果の刊行

○中国禅宗史・語録研究班の成果

- ① 『中国禅思想史』 伊吹敦 (平成 28 年度刊行予定)
- ② 『初期禅宗史研究』 松岡由香子 (平成 28 年度刊行予定)

○日本禅宗史・禅語録研究班の成果

- ① 『訓注永源寂室和尚語録』全 3 巻 大本山永源寺 (平成 28 年 9 月刊行)
- ② 『懶斎集』上下 平林寺 (平成 28 年 12 月刊行)
- ③ 『訓注 武溪集』 横田南嶺+藤田琢司 (平成 28 年度刊行予定)

○マルチメディア研究班の成果

- ① 2017 年禅語こよみ (作者未定) (平成 28 年 9 月刊行)
- ② 『和尚さんの身体講座』 樺島勝徳 (平成 28 年度刊行予定)
- ③ 新装版『仏教東漸』 多田稔 (平成 28 年刊行予定)
- ④ 『禅僧の死に様』 藤田琢司 (平成 28 年度刊行予定)
- ⑤ 絶版刊行物をオンデマンドまたは電子書籍として復刊する。

3. 公開講義等

①「禅思想の諸問題」〔講師 西村恵信 (所長・花園大学名誉教授)〕

所長による講義で、『信心銘闡義解』全 3 巻 (中峰明本著) をテキストに禅の基本思想を平易に教える。一般社会人を対象に毎週火曜日 3 時から 5 時まで開催。

②「禅録読み下し寺子屋講座」〔講師 能仁晃道・藤田琢司〕

宗門や一般向けに開講する禅録を読むための入門講座。『碧巖録』や『無門関』などから話頭を選び、訓読の基礎から指導する。月 1 回開催。

4. ホームページの運営とコンテンツの充実

①禅文化研究所ホームページの運営とコンテンツの充実

ホームページのコンテンツ更新を行なっていく。また、Facebook や Twitter へも更新情報等シェアしている。今年度は、春の京都禅寺一斉拝観の特設サイト (<http://zendera.info>) も昨年より継続運用する。

②臨黄寺院ネットワークの運用協力

臨濟禅を世界に発信する公式サイトである臨黄ネットの情報更新及びコンテンツ制作を行なう。特に臨濟禅師・白隠禅師遠諱事業のページを充実させる。

5. 公開講演会等

①公開講演会

企画墨蹟展公開中に記念講演会を開催する。今年度は2016年4月2日～6月4日の春季展覧会会期中に2回開催予定。

②天龍寺・臨川寺遠諱記念特別拝観

臨濟禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念として開催する「春の京都禅寺一斉拝観」の一環として、アメリカ人禅僧 トーマス・カーシュナー師を講師に、通常非公開の臨川寺と天龍寺の特別拝観を実施する。開催日は、4月16日(土)/4月24日(日)/4月30日(土)/5月4日(水)/5月10日(火)/5月16日(月)/5月22日(日)。何れも10:00集合～13:30解散。

③教化・運営の実践講座（サンガセミナー）

昨年度に続き、寺院の教化活動や運営などに役立つ実践的なセミナーを有料で年4～5回（8～10講座）開講する（会場は京都）。僧侶・徒弟だけでなく一般も受講可能。今年度の講座内容は、「東林院精進料理講座」・「野菜料理研究家による料理講座（精進）」・「日々の花 講座」・「香りの講座」・「僧侶限定ヨガ講座（年齢別）」・「禅の庭講座－公家と禅宗寺院－」・「水墨画教室 ー秋の実りを描くー」・「戒名の作り方－歴史・意義・実践－」・「傾聴講座」などを予定。

6. 広報・普及

研究成果としての刊行物を、各種媒体を通して広報し、直販、寺院売店、書店の各ルートを通じて普及促進するほか、メールマガジンの発行、Twitter や Facebook などを利用して、より広範囲に普及するよう努力する。

また、遠諱事業である「禅－心をかたちに－」展（京都国立博物館 4/12－5/22・東京国立博物館 10/18－11/27）の売店にて刊行物の販売を行なう。

さらに、6年ぶりに日本最大の読書推進イベントである東京国際ブックフェア（会期 9/23～25）に、東京国立博物館での特別展のアピールを兼ねて出展することを検討中。

II. 収益・共益等事業

〈1〉ソフト開発・販売等事業

1. 宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売

「財務管理」「法務管理」「会費管理」「寄付金管理」の各システムを発売中。宗門を中心に仏教諸宗への販売促進。DM（ダイレクトメール）やネット上のアドワーズ広告等を中心に販売を行なう。最新のWindows8.1にも対応済み。「擔雪Ⅲ」へのバージョンアップのための開発準備を進めている。

2. オーダー型宗務所管理システムの構築

①南禅寺派管理システムの機能追加

システムの追加要望の対応とその運用をサポートする。

②建長寺派管理システムの機能追加と運用サポート

システムの追加要望の対応とその運用をサポートする。

③曹洞宗宗務所管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートすると共に他の宗務所への営業を促進する。

④天龍寺派管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートする。

⑤妙心寺派布教師会管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートする。

⑥佛通寺派管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートする。

⑦真言宗管理システムの運用サポート

神奈川宗務支所が導入したシステムの運用をサポートする。

⑧青蓮院管理システムの保守サービス

既存ソフトウェアの保守及び機能追加と改変作業を行なう。

⑨永保寺墓地管理システムの構築

虎溪山永保寺からの受注制作。平成 28 年 6 月納品、運用をサポートする。

3. 宝物管理システムの販売

公益事業の一般寺院什物データベースと関連して、一般寺院が個々に所蔵される宝物什物（軸物・仏像など）をデジタルアーカイブとしてデータベース管理できるソフトウェア「禅の至宝」を開発。昨年に引き続き寺院に向けて販売する。

4. 出版物頒布

他社から委託を受けた出版物をホームページやDMなどで案内し、頒布する。

〈2〉 共益事業

1. 臨濟禅師 1150 年・白隠禅師 250 年遠諱事業

遠諱記念事業の事務局として平成 28 年度は、以下の事業を担当する。

- ① 記念企画「what is Zen?」（六本木ヒルズカフェ） 4 月 16 日
- ② 特別展「禅一心をかたちにー」京都国立博物館（4/12～5/22）・東京国立博物館（10/18～11/27）
- ③ 『臨濟録』国際学会（花園大学） 5 月 13 日・14 日
- ④ 日中合同法要訪中団（A コース 9/6～8・B コース 9/6～11）
- ⑤ 大坐禅会（建長寺・円覚寺） 10/29・30

その他、白隠禅師シンポジウム（平成 29 年 2 月～10）に向けた準備を行なう。

また、研究所として以下の編集を担当する。

- ① 『臨濟宗黄檗宗宗学概論』（平成 28 年 4 月刊行）

- ②『臨濟録研究史』 (平成 28 年 5 月刊行)
- ③『臨濟録』 国際学会論文集 (平成 28 年 5 月刊行)

2. 寺院その他委託出版

- ①『梅天禪師法語』 妙心寺派正法寺 (平成 34 年刊行準備中)
- ②『大用国師墨蹟集』 大本山円覚寺 (平成 31 年刊行準備中)

3. 引導法語データベースの公開

妙心寺派教学部と共同で制作した引導法語データベースについて公開中。

4. 臨黄合議所事務局

臨濟宗・黄檗宗各本山の合議機関である臨黄合議所からの事務委託を行なう。

- ①「臨黄会報」の発行(年 2 回)。
- ② 臨黄互助会の促進。
- ③ 臨黄教化研究会の実施。
- ④ 会議等の事務処理。
- ⑤ 臨濟禪師 1150 年・白隠禪師 250 年遠諱事業の推進

5. 日中臨黄友好交流協会

中国仏教界との交流事業の推進。臨濟禪師・白隠禪師遠諱事業の一つである日中合同法要に向けての協力。